

公表 事業所における生活介護自己評価結果

事業所名		チャイルドサポートみやこ		公表日		令和8年4月1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	3	・多機能型の事業所ということもあり、他児童の成長と共に、スペースが狭くなっている。今は、スペースは確保できているが、今後は十分なスペースが確保、提供で	・多機能型の事業所ということもあり、他児童の成長と共に、スペースが狭くなっている。今は、スペースは確保できているが、今後は十分なスペースが確保、提供できない可能性も含め、環境整備や預かり時間の調整等を検討していく必要性がある	
	2	職員の配置数は適切であるか。	6	3	・配置基準は満たしているが、他利用者の体調や状況などで、関わりが手薄になる時間が生じているため、利用者の少ない午前の時間に活動や入浴等を行っている		
	3	活動室は本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	・バリアフリー化されている箇所はあるが、玄関や廊下は狭く感じる ・利用者の環境の理解に繋がる整備は弱いが、お昼はオルゴールを流す等、音楽を使用する事で認知力向上を図っている。	・玄関は両側のドアを開くことで玄関の広さの課題は解決可能、今後は広さを確保していく。廊下はチャイルドシート等が置かれている事で狭く感じる。物品の整理整頓を行い、広さを確保していく。 ・利用者の環境理解に繋がるよう、部屋の区別を音(冊袋等)を用いる	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	安全を確保する。 ・定期的天井の照明の清掃を行い、清潔で心地よい環境作りを行っている。 ・ロールカーテンは防火管理上の機能確認をし、他で代用できるように替え、清潔な環境設定を行う	・天井の照明はオシャレなデザインだが、こまめに掃除をしないと埃が溜まりやすい形となっている。 ・ロールカーテンは防火管理上の機能となっているが、カビが生えやすい。 ・屋外の道路が砂利が多く、バギーが移動し辛いので整備が必要と思う	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	3	・1月に1回は事業所の計画の振り返りを行えているが、振り返りの結果を十分に活かしていない。 ・振り返りに参加出来ている職員に限られている。	・振り返りの内容を議事録として残し、隙間時間に見直し出来るよう、議事録を活用する ・振り返りに参加が難しい職員は必ず議事録を確認してもらおう等のルールを決める。	
	6	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・毎年の事業所評価で保護者の意見は吸い上げ出来ている。 ・事業所評価の結果を次年度の運営に十分に活かしていない	・保護者の意見の吸い上げは継続し、今後は自己評価を基に事業所の質の向上を図る	
	7	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・事業所で1週間に1回はmtgを行い、職員の困り感の吸い上げを行っている。 ・不定期ではあるが、職員面談実施、職員から挙がった意見の改善を行っている	・事業所MTGは継続し、職員の困り感や課題の吸い上げは継続。今後は回数を増やし、職員の離職防止、働きやすい環境作りを行う	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		・定期的に関わりのある外部からの意見は貰えている	・今後も継続、業務の効率化や改善につな	
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・外部講師の研修には定期的に参加できている。 ・法人全体の勉強会の開催、参加し職員の脂質向上に努めている	・今後も継続。	
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・児童の特性を分析し、適切なプログラムの作成、公表を行っている	・今後も継続。	
	11	アセスメントを適切に行い、利用者や保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	9		・特性や長所、生活環境を踏まえ、保護者の想いやライフステージ毎の課題を各専門職で話し合い、個別支援計画書を作成	・今後も継続。	
	12	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	2	・個別支援計画書を作成前の評価は職員全員の意見を出し合い、作成を行っているが、最終の計画内容が周知されない時がある。	・変更した内容は全体に周知し、支援を行っていく。全体周知の手段は検討し共有漏れを防ぐ。	
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・チームで話し合いを行い、外部との交流を含め支援プログラムを立てている。 ・活動の役割を分担し、支援を行っている	・今後も継続。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・様々な活動を立て固定化を防止している ・学校から帰ってきてからは入浴時間がある児童が多いので、スケジュールの隙間時間を工夫し短時間ではあるが、支援を行っている	・今後も継続。	
15	利用者の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		・多機能型の事業所となり、児童発達支援、放課後デイと低年齢の児童が多い事から、集団の活動が年齢相応ではない、個別活動は定期的にお散歩や他事業所との交流等で実施できている	・今後も継続。		

供	16	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・毎朝関係機関と合同の朝礼を行っている。 その日の職員の予定、児童の情報等を共有することで事故、ヒヤリの防止や支援の質向上	・今後も継続。	
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	3	・職員全員で集まる事が難しいため、気付いたことや保護者への申し送り等は口頭で行っている。 ・気になる事はラインや記録で共有している	・終礼の時間を確保することは難しいので、記録や事業所のグループラインの活用は継続	
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・支援記録は毎日とる事は徹底出来ている。 とった記録は明朝の朝礼で共有し、休んでいた職員に対して情報共有漏れが無いように務	・今後も継続。	
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・定期的に評価を行い、目標の見直し、再設定を行うことはできている	・今後も継続。	
	保護者への説明等	20	相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その利用者の状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・参加、事業所での様子等意見を伝えてい	・今後も継続。
		21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・定期的に地域の障害福祉施設や、病院、移動支援や居宅介護等、関係機関と定期的に連携し支援に繋げている。保護者以外からも情報を得る事で、様々な角度からの支援に繋げている	・今後も継続。
		22	他の生活介護事業所と連携し、助言や研修を受けているか	9		・他生活介護事業所と情報の交換や交流を行うことで、活動内容の見直しや地域全体での課題について考える機会になっている	・今後も継続。
		24	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	4	・契約時に運営規定や負担額等については説明を行っている。支援プログラムについては、丁寧に説明はできていない。	・契約時に支援プログラムの説明も併せて行う。プログラムの内容の目的やねらいも丁寧に説明を行う
		25	作成した個別支援計画を示しながら、支援の内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	8	1	・担当者会議や面談等で意思の確認、書面での家族の想いや生活環境、困り感を確認出来ている	・今後も継続しながら、面談も入れていく
26		定期的に、家族等からの悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・支援計画書の変更が生じた際は、迅速に計画書を作成し、保護者の同意を得て支援を開始している	・今後も継続。	
27		親の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	・送り出し時の相談等はその場で解決出来ない内容もあるので、事業所へ持ち帰り、事業所職員や相談員等全体で検討し、対応している。助言、アドバイス等は随時実施、面談はできていない。	・今後は面談を実施し、ライフステージ毎の悩みや課題について支援を行っていく	
28		利用者や保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、利用者や保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・相談窓口の案内は契約時に保護者へは周知している ・虐待や身体拘束等に関しては、会社の役員で構成された委員会があり、虐待、身体拘束等が起こった時の窓口も契約時に保護者へ周知している	・今後も継続。	
29		定期的に会報等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を利用者や保護者に対して発信しているか。	5	4	・今年度からInstagramを使用し、日々の活動を発信しているが、発信回数と曜日が不定期	・SNSの発信曜日を決め、保護者へ再度周知し、事業所の取り組みを見てもらう。	
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		・医療ケアを必要とする児童の生活介護単体の事業所が無く、多機能型の現事業で支援を継続。体調面や発達面等に变化あれば都度情	・今後も継続。		
31	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・情報の取り扱い、契約時に保護者に確認を行う等、注意を払いながら管理を行っている。 SNS等で発信する際も保護者の意向を踏まえ、取り扱いには気を付けている	・今後も継続。		
32	障害のある利用者や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・連絡帳を使用し、意思疎通や情報伝達を行っている。連絡帳で記載が不十分な内容等に関しては、直接話す等の対応を	・今後も継続。		
33	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	4	・夏祭りを開催し地域の方を招待、ハロウィン等のイベントは地域の方の協力を得て事業所の運営を行っている。また、地域のイベントへ活動の一貫として参加出来た。地域交流は回数が少ない	・イベント開催は今後も継続。地域のイベントへも感染症に気を付けながら参加していく。		
34	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・緊急マニュアル、感染症マニュアル等のマニュアルは作成し、職員やご家族に周知、ご家族と内容については話をすり合わせを行っている。シュミレーションも実施、事業所で振り返りを行い意見を出し合う事がより良い対策につながった。	・今後も継続。		
35	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・BCPは策定できたが、実際の災害を想定しての避難訓練後のBCPの見直しまでは実施できていない	・今後も訓練は継続し、訓練後のBCPの見直しを行っていく。		
36	食物アレルギーのある利用者について、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・食物アレルギーの利用者はいないが、注入や吸引等のケアは主治医の指示書を基に行っている。ケア等に変更があれば、都度、訂正してもらっている	・今後も継続。		

37	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・定期的に研修動画を視聴し、現場で実際のシュミレーションを実施出来ている	・今後も継続。
38	利用者の安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・安全計画に基づき、訓練を実施している。訓練日は保護者へ報告する等取組みについては周知できている	・今後も継続。
39	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・ヒヤリハット、事故に関しては迅速に事業所で周知、再発防止の対策の意見を集め対策を行っている。対策を実施する中で、不十分と感じた時は再度検討し、事業所全体に周知し、再発防止に務めている	・今後も継続。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・職員全員の年2回の虐待、身体拘束の研修の必須受講や新人研修の内容に虐待、身体拘束の研修受講を組み込み防止を行	・今後も継続。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、利用者や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	9		・身体拘束の3条件を伝え、やむを得ない場合は保護者へ相談、安全を優先している。常時、身体拘束を行う児童はいない為、計画書には記載していない	・今後も継続。